

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014年度	インターン番号	KB1097	タイプ	公募型
派遣国	インド		派遣都市	デリー	
受入機関	Bhartiya Samruddhi Investments and Consulting Services Limited (BASIX India)				
受入機関概要 (事業内容等)	低所得者を対象とした生活向上支援事業 (金融サービス、技術支援、環境・エネルギー事業など)				
派遣期間	2014年9月10日 ~ 2014年12月25日				
現在の所属先	日本総合研究所		当時の所属先	慶應義塾大学院	
現在の所属部署	創発戦略センター		所在地	東京	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

BOPビジネスと呼ばれる低所得者向けビジネスをビジネススクールで研究しており、途上国で展開されているマイクロファイナンスに関心がありました。インド最大で世界でも有数なマイクロファイナンス機関BASIXは、マイクロファイナンスに生活向上支援サービス(起業・雇用・スキルアップ・生産性向上)をセットにした商品を展開していることが特徴で、今回インターンシップに参加させていただきました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

BASIXは社会的企業でありながら、金融・教育・農業・インフラ・都市開発など幅広く事業展開しています。インターン1ヶ月目はホールディングスで全体経営や企業変遷について幹部陣から直接指導を受け、その後、傘下のグループ会社2社でインターンを行いました。1社目は過疎地向けの銀行サービス代理業の会社、2社目は起業・就業を目指す職業訓練学校で働きました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

他国のインターンでありながら、受入機関から多くの情報を提供してもらい、どのように戦略がビジョン・ミッションの達成に貢献するか、学ぶことができました。文献やデータだけでなくインタビューやサイト訪問を通じて、自分自身の目や耳で知ることができたのは貴重な体験です。インターンシップでは開発機関と民間企業が協働するビジネスに関して、大きな収穫がありました。パートナーシップを求める企業は欧米企業が多くを占めており、まだまだ日本企業がインドの中間層や低所得者層に対してビジネスを行うことは本格的には到っていないと感じました。しかし、ニーズに応える製品力など、日本企業に求められる役割・貢献はあると確信しています。インターンシップ中に進んでいた日系企業との家電事業では、製品の販売が開始し、多くの低所得者の生活向上に役立っています。

インターンシップ風景①



デスクはこのような感じ。
一時的な停電がよくありました。



本社でデータや報告書を分析するより、
サイト訪問で学ぶことが多かったです。

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ前から低所得者層に対する開発やビジネスに強く関心があり、実際、その事業を行う受入機関に配属され、とても良い経験と学びが得られました。特にインフラが未成熟でインフォーマル経済が発達している対象地域において、どのように社会問題の解決と、市場やビジネスの活性化を行うか、考えることができました。また、開発機関・企業・現地住民の3主体が協働し、市場やビジネスを立ち上げるアプローチについて、受入機関の多くのプロジェクトを通じて知見を得ることができました。既存アプローチ(国連の開発アプローチとBOPビジネスのアプローチ)を用いた検証により、プロジェクトの成功率を高める要因を知ることができ、自身の専門性を高められました。

このインターンシップ体験や研究内容を論文や報告書にまとめたところ、複数の企業などから話を聞きたいとお声かけを頂くことができました。インターンシップ先のBASIXのミッションやビジョン、プロジェクトの進め方は欧米や日本と異なったものが多く、多くの方に興味を持っていただきました。この手法が日本でも実施できないか、現在も検討しています。

またこのインターンシップ体験があったおかげで、卒業後に自分が関わりたい分野が明確になり、次の就職へつなげることができました。現在はシンクタンクのコンサルタントとして、国内外の社会課題に関わるプロジェクトを担当しています。自分自身が現地で得た体験や学びがあるからこそ、その課題に対して、本質を見極め、具体案を出すことができ、現在の仕事でも活きていると感じています。

現在も多くの社会的起業家や同分野の人々とつながることで、最新の情報やプロジェクト進捗を伺える環境にあることは、インターンシップの経験があったからこそだと思います。合わせて支援していただいた経済産業省やHIDAの皆様、同期のインターンシップのメンバーとの出会いはかけがえの無いものになりました。今でも継続的にコンタクトをとりながら、色々とディスカッションをしています。

最後になりますが、日本を離れ、インドで貧困解決や自立支援に関わるなかで、多様な言語・宗教と根深いカースト制度に触れました。このインターンシップは、伝統あるインド文化を尊重し、生活向上と選択を広げる技術や文明を隔てなく届ける方法について考える機会になりました。ダイバーシティが話題にあがりますが、まずは相手を知ること、理解することが第一歩になることを実際に体感することができました。途上国には先進国が支援する、という形が一般的な概念とも捉えがちですが、彼から学ぶことも多くあります。一緒に社会課題に取り組む、その姿勢を学べたことがこのインターンシップの最大の財産です。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

初めての海外インターンシップに挑戦する人も、明確な目的を達成したい人にも、本事業への参加はとても有意義で、間違いなくその後の人生に大きく関わる岐路になるはずです。支援していただける皆さんも、インターンシップの仲間も多くなりますので、まずは参加に悩むより、応募してみるのが一番です。インターンシップの先輩とのネットワークもありますので、色々相談にのってもらえますよ。

インターンシップ風景②



携帯と小型プリンター(指紋認証機能つき)で銀行サービス代理業を実施(Sub-K)。



銀行サービス代理業は、銀行の支店やATMがない地方で、村の小売店の店主がエージェントとなり実施。インターンではこのようなサイト訪問を多く行った。